

平成27年第2回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成27年6月17日（水曜日） 午前10時開議
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	黒田重利	議員	2番	大賀孝訓	議員
3番	瀬山登	議員	4番	松島茂喜	議員
5番	塩井早苗	議員	6番	原義裕	議員
7番	松村潤	議員	8番	神谷長平	議員
9番	半田晴	議員	10番	坂井孝次	議員
11番	大野貞夫	議員	12番	田部井健二	議員
13番	小沢泰治	議員	14番	小島幸典	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
堀井隆	副町長
大竹喜代子	教育長
小倉章利	総務課長
橋本喜久雄	企画課長
金井幸男	税務課長
吉田紳二	住民課長
橋本圭司	安全安心課長
河内登	健康福祉課長
多田哲夫	子ども支援課長
大舩一	農業振興課長 兼農業委員会 事務局長
半田実	商工振興課長
小島靖	都市建設課長
神山均	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
清水雅文	学校教育課長
半田康幸	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田部井	春彦	事務局	長
石原	光浩	書	記

◎開議の宣告

○田部井健二議長 これより本日の会議を開きます。

〔午前10時00分 開議〕

◎発言の申し出

○田部井健二議長 日程に入る前に、教育長から発言の申し出がありましたので、許可します。

大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 おはようございます。議長にお許しをいただきましたので、昨日の大賀議員のご質問に対しまして補足説明をさせていただきます。

社会教育と生涯学習の違いについてということですが、社会教育とは、学校教育を除き、主として青少年や成人に対し、国や地方公共団体に奨励され、行われる組織的な教育活動。それに対しまして生涯学習とは、学習者の視点から捉えたもので、社会教育における学習のほか、学校教育や家庭教育における学習を含む各人の自発的な意志に基づいて行われる生涯にわたっての学習でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎一般質問

○田部井健二議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

順次発言を許します。

◇ 小 島 幸 典 議 員

○田部井健二議長 14番、小島幸典議員。

〔14番 小島幸典議員登壇〕

○14番 小島幸典議員 皆さん、おはようございます。14番、小島幸典です。私の議員としての責務により、組織を持たない、声なき声の町民の代弁者として、通告どおり一般質問をいたします。

今世界各地で自然災害による報道も相次ぎ、また隣国、韓国のコロナウイルスの感染者はふえていくと、心配なことばかりで、今の世界情勢の中では非常に、本当にグローバルな世界でありますので、また韓国でのウイルスの死者は16人以上と報道されています。人命尊重を第一に考える私たちも他人事ではなく、早く平穏な生活に戻ることを祈らずにはられません。

当邑楽町にあっては、3月議会にあって、子育て家庭の支援のもととして出生児全員に祝金を支給することを私は大野議員、原議員とともに議員発議とし、大野議員、小沢議員の賛成討論を受け、議会議員全員の賛成で可決、成立したこととなり、6月4日の産業福祉常任委員会の課長説明で町

出産祝金支給要綱の改正案の趣旨説明がありました。また、6月5日、全員協議会では、報告事項等として、出産祝金支給要綱の一部を改正することが説明され、第1子5万円、第2子10万円、第3子20万円支給することを平成27年4月1日までさかのぼって支給するとの大英断に、町民の一人として賛成して下さった全議員の皆様と、行政側が早々と実行に移して下さったことは、町民憲章にうたわれている「邑楽町は笑顔あふれる福祉のまちです」ということを考えれば、町長、副町長、また担当課長のスピードあふれる英断に心より感謝いたします。この子育て支援政策は未永く町民の誇れる宝となり、愛情あふれる福祉の種まきとなることを願い、本題の質問に入ります。

第1問、町主幹生活道路の整備計画と進行状況は。どのような進行状況になっていますか。これは18号線、鶉から今のすずかけ荘という老人施設の通り、そして中央保育園の通りですね。この通りは非常に、もう何十年も同じような道路の幅であって、かなり曲がりくねって、細い道です。雨が降ると片側が水たまりになり、またこれは、一番心配なのが、中学生の通学路になって、自転車で通っている子供たちの毎日の、要するに日課というか、生活道路になっているのですよね。この辺の整備状況を報告してもらいたいと思いますけれども、この辺どうなっていますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町道幹線道路整備の進捗状況ということでのお尋ねですが、特に具体的には18号線ということがありましたが、今町のほうでは18号線も含めて5号線、26号線等々について、いわゆる町内の幹線道路について事業計画をし、年度別に工事の進捗を図っているところでもあります。特に18号線につきましては平成26年度に用地買収が一部を除いて完了いたしまして、平成27年度以降については電柱移転ですとか側溝等についての工事に入っているということでございます。18号線に限らず、計画した幹線道路については年次的にこの工事の推進を図っていくということで考えております。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 町長、これは進捗状況のことでなのですけれども、どのような進捗状況かと。要は、90%、100%用地買収は終わったよとかというのでないと、予定の3年間、平成30年の開通までにどうなるのか。その辺のことを私は今聞きたいのです。簡潔明瞭に、80%終わっていますとか、99%終わっていますとか、この辺のパーセントでいいですから、お答え願いたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 18号線ということに限定を申し上げますが、平成27年度については側溝整備、それから電柱移転の事業を予定しております。平成28年度については路盤工、表層工を行い、平成29年度については表層工を行って、平成30年ということについては供用開始できるように計画をいたしております。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 町長、土地の買収のパーセントと私はちょっとつけ加えなくてはならなかったかなと思うのだけれども、道路を広げるのに地主が提供してくれるとか協力してくれる、それが現時点でどのくらい進んでいますか。はっきりそれはパーセントの、例えば200件ある中の180件はもう同意してもらいましたよとか、そういう要するに契約、それがどうなっているかと私は聞きたいのです。そうでなかったら、町民があ道路で事故でもあったら大変です。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 関係する地権者のうち1件が相続の関係で今手続中ということで、全て用地買収については済んでいるということでございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今町長に報告していただきまして、本当にありがとうございます。ほとんど、1件だけということになりますと、これはもう全部終わったと同じように私は捉えています。ということは、あれだけの長い、要するにカインズホームのちょっとこっこの雷電橋というのがあるのですが、橋から、要するに生協の通りまでの距離というのはそんなに長い距離ではないですよ。これは町道です。町道であれば、県だとか国の許可申請とかではなくて、町長の判断一つでできるのではないですか。であれば、計画を先送りして平成30年度の着工ではなくて、用地の買収が全部終わった時点で着工してもらいたい。

ということは、先ほど話したように、すごく道が劣悪です。雨が降ったとき、ちょっとのぞいてみてください。事故でもあったら大変なのです。お年寄りがあそこへ、カインズホームへ行くのに通る、生協の帰りに通る、とりせんの帰りに通る、そういう日常に使われているあそこはすごい道路です。もちろん車もすごく多くなっています。そういうことを考えたら、平成30年着工ではなくて、用地買収が済んだらどんどんできるのではないですか。その辺どういう問題があるか、ちょっと教えてもらいたい。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のほうから平成30年の着工という話がありましたが、平成30年には供用が開始できるようにということでお答えをしたと思いますが、着工については全て平成27年度に、今年度から着工を始めるということで、これはすぐに完成を目指せということのお尋ねだと思いますが、工事期間等々ありますし、道路ということになれば、将来的にわたって安全にそれが使えるような形をとれば、一定の計画の中で、そして間違いのないような工事施工をしていくということになりますから、若干の時間はいただくと。それが先ほど申し上げました計画、平成27年度、平成28年度には路盤工、平成29年には表層工をやって、そして平成30年には使っていただくと、そういうお答

えを申し上げたわけでもございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 そうすると、町長、平成30年度には開通する、そういう決意があるのですか。その辺をはっきり答えてもらいたい。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 道路を供用開始するということは、平成30年からその道路が使えるということでご理解いただいて結構です。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 明快な答弁ありがとうございます。そういうことが決まった中で、19号線は18号線に交差している道路なのです。

それで、この19号線は、町長のいろいろ広報等で見ますと、ことしの12月に開通ということで計画されていますけれども、その辺12月に開通するのですか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 12月末には開通、供用開始をするということでご理解いただいて結構です。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今町長のほうから、12月には開通できると。であれば、18号線と交差するわけですね。そうすると、開通されたときに、この18号線と19号線は、要するに交差点になって、そこを通過するようなことが起こってくるわけです。これに関して、道路の交差点の信号機の設置というのですか、これはもう3年後には18号線も一応供用できると町長今答えていますけれども、この信号機の申請等、または要望等は出してあるかないか、その辺をお答え願いたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 18号線と19号線が交差する交差点については、今県の公安委員会のほうにその信号機の設置も含めて協議中でありまして、現在手続を進めているというところでございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 これは、進めていると今町長言いましたけれども、12月に19号線が開通した場合、確実にこの信号機は設置できるもののでしょうか。その辺をお答えいただきたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 信号機の設置については今協議中でありまして、ただ18号線の工事が始まるということですから、その交差点部分についての改良をどのような形であれば安全が保たれるかと

いうことも含めて考えていかなければなりませんので、信号機の設置が12月までできるかどうかということについては、十分それらを踏まえた中での設置要望という形になりますが、いずれにしてもあの交差点、信号機を設置しなければ大変危険の度合いが増すわけでありますから、この設置については安全対策を十分考えた上で進めていくということになると思います。

あわせて19号線の丁字路ですが、これについては、供用が開始されるまでには信号機の設置ということは今進めていただいているというところでございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今町長、進めているからということなのですけども、確実にこれは、やはり物事というのは数学のようにぴしっ、ぴしっと答えは出ないと思います。それは私もわかってます。ただ、安全ということ考えた場合、もし信号機が設置できない場合、西から、要するにすずかけ荘、中央保育園等西から来る場合の道路として迂回路をつくって、交差点を通過しなくてもいいような物の考え方、これを私は提案したいと思うのです。ということは、北海道のような大変な事故、あそこ、すごい、今度はあれ、19号線が開通すると、トラックや乗用車も国道122号のほうからも入ってきます。そういう流れの中で、事故でもあってからでは大変なのです。取り返しがつきません。そういう中で、信号がもしできない場合は、西からは右折、生協のほうへ入る道がありますよね。それで、右折ラインとか、それで東からは、保育園の東の道路を南へという一方通行を、とにかく事故を防ぐのだ、そういう物の考え方で、町長、やってもらいたいと思うのですけれども、その辺の考えはどう思いますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、あの地域に保育園と老人施設がありますから、この問題については慎重に考えていくということがあります。

今迂回路という話がありましたが、幸いこの交差点に南部から来た場合は、南から入った場合は、その交差点を利用しなくも、即右折をして、左折をしてということでのその施設の利用ということは可能な道路はあります。ですから、これは今後の、先ほど申し上げましたけれども、工事の進捗状況ということが関係してきますから、そういった方法も十分考慮した中で進めていくということは大切だというふうに思っています。何としても安全対策を優先した中での工事を進めていかなければなりませんので、迂回路の利用ということも選択肢の一つかなと、そのように思っています。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 町長の安全の対策ということで今聞いて、ちょっと安堵したところもあるのですけれども、ということは、これはとりせんの南の道路、それで、そこから2区の、要するにいわゆる東原のほうへ抜ける、岡田クリーニング店のほうへ抜ける道路、これに関しては恐らく1,000万円というような話を聞いていますけれども、あっという間に6カ月くらいででき上がって

います。であれば、町道であることに関して、これは町長の裁量で、今言った18号線であっても、補助金がどこからか町長の力によってもらえれば、何が何でも3年ではなくて、用地買収が済めばもうどんどんできるわけですから、もっとスピードアップして、そして町民の生活の一助ということ、それと一番大事なのは、何回も言いますが、人命なのですよね。もう取り返しはつきません。事故が起きて、寝たきりになったり、車椅子になったり、また一命を失ったり、それを我々やっぱり声なき声の代弁者として、議員みんなそうですよ、町長は最高責任者ですよ。そういう補助金がもし出た場合は、完成期間等度外視してスピードアップするのだと、そういう決意は町長ありますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この道路については、私はスピードアップをして行っているというふうに思っています。ただいま言われましたように、町のほうでも国等の社会資本整備計画の中での補助金等も受けた中で計画年次を立てているわけでもありますから、これは18号線に限らず、先ほど申し上げました5号線、26号線等々について、幹線道路については大変多額な費用を投入するわけでもありますから、できるだけ町費負担、全額ということでなくして国費等の利用も図っていくということになりますと、やはりある程度の年数がかかってしまうと。執行については、担当するそれぞれの担当課と協議をした中で私が判断していることでありますから、議員が言われますように、町道の分についてはそういういろんな条件を踏まえた中で判断をさせていただいて、スピードを上げて事業を行っているということでご理解いただきたいと思えます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今町長から本当に前向きなお答えをいただいて、私も善意に解釈して、本当に6カ月でも7カ月でも予定よりも早く着工できること、私は願うばかりなのですけれども、それに伴って、これは教育長にちょっとお願いがあるのですけれども、今話したように、18号線、もちろん19号線、ほかの道路でも、子供が非常に自転車に乗るのが多いです、今。それで、その中で、交通マナーといいますか、今度は自転車もかなり道路交通法でうるさく、うるさくと言うと失礼になってしまうのですけれども、厳しく制限される、注意されることがありまして、私も見ていて、右側通行をしている、そして広がって乗っている中学生、大人もいますけれども、そういうことの流れの中で、やはり学校教育として交通ルールを守る。そして、横断歩道を通るときは手を挙げて車に合図して、車が確実に止まったら左右確認して通るのですよと、基本的なマナー、交通マナーにどのような学校教育をしているか、ちょっとお尋ねします。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えいたします。

小学校の徒歩通学、一部自転車通学もあるのですけれども、それにつきましては、まず入学前から幼稚園・小学校の連携の中で親に指導しています。学校に行く練習を親と一緒にしてください。そして、入学式でも指導します。警察署から来て、お話を聞きます。そして、その他、小学生でも自転車に乗る機会がありますので、自転車教室をやったり、また各学級で、学校でさまざまな交通指導についてはしておりますが、なかなか徹底を図れないというところもご指摘のようにあると思いますので、これからも本当に毎日言ってもいいくらいのことですので、やってもらいます。

また、自転車通学につきましては、本当に交通ルール、マナーを守らない子供も見受けられるということで連絡もいただいたりしています。そして、この6月から道路交通法も改正になって厳しくなりましたので、この間の校長会では、徹底して自転車通学については指導するよというこで話しております。また、教職員にも折々通学路に立ってもらって、実際に見てもらって、そして交通マナー、交通ルールを守るよというこでやっておりますが、また何かありましたらご指摘いただけたらありがたいと思います。よろしくお願ひします。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 本当に人命の尊重ということを考えると、我々車を運転している大人たちも気をつけなくてはならないけれども、子供がある意味では見本になることもままありますよね。すばらしいマナーだとか。見るたびに私は直接、今家庭訪問指導員というあれをもらっているのですが、遠慮なく、車のスピードを緩めて、窓をあけて、「左側を通ってね」といつも指導しています。それと、横断歩道で止まっている子供たちは、運転手から見れば、手を挙げていないから、横断するのか、しないのかというような迷いがあるわけですよ。だから、そういうのを徹底してやはり学校等で指導してもらえれば、また交通指導員にどんどんやっぱり来てもらって、そういう時間を、指導の時間を与えてもらえればありがたいと、私はそのように思いますので、ひとつ本当に人命、誰がけがをしても、先ほど話したように、入院しても車椅子になっても大変なことなのですよ。そういうことを考えると、「転ばぬ先のつえ」といいますけれども、とにかく我々はそういうお互いに助け合う、そういうことを大事にしてもらえれば、交通事故は少しでも少なくなる、また違反が少なくなるということで、ひとつ子供の教育、我々も含めてやりたいと思いますので、よろしくお願ひします。答えはいいです。

これから第2問、次の質問に移らせていただきます。中央公民館建設の費用、国、県の補助金が出ていますよね。当初は40%というようなことでありますけれども、建設費が16億円ぐらいということで、これは議会のほうにも出ていると思います。私はこの中央公民館の建設には別に反対ではないのです。であれば、先ほど交通のことでも話したけれども、「転ばぬ先のつえ」、これを考えた場合に、やはり夕張市のようにやみくもにどんどん、どんどん、後の対策を考えないでやった場合は、非常にマイナスの遺産を後世の、今の子供たちに残してしまうのではないかなと。そういうことを考えた場合、町長、この補助金の40%、これはどのような方法でもらえるのか、その辺の方法、

道筋をちょっと教えてもらいたい。

○田部井健二議長 半田生涯学習課長。

〔半田康幸生涯学習課長登壇〕

○半田康幸生涯学習課長 お答えさせていただきます。

補助金というお話が今議員のほうからございましたが、質問の中では国、県というようなお話もあったようですが、中央公民館につきましては県の補助金はございません。

国の補助金ということでございますけれども、現在町のほうで申請をしておりますものは都市再生整備計画事業に係る社会資本整備総合交付金というものでございます。こちらは平成26年度から平成29年度までの4カ年を事業実施期間として申請をしているものでございます。複数年にわたって交付を受けられるわけですが、交付金の交付につきましては毎年度受けるというような形になっております。当該年度、例えば本年度の交付金につきましては、前年度の末に内定といたしますか、通知がありまして、その後4月から5月ぐらいに交付決定がされます。実際に交付金が交付されるのは、それから1年後。事業実施年度の最終盤といたしますか、年度末になるということでございます。

先ほど議員のご質問にもありましたが、この補助金、交付金につきましては、一般的に補助率と言われます国費率ですが、こちらは交付対象事業費の40%というふうになっています。議員ご指摘のとおりでございます。よろしく願いいたします。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 そうすると、これは、課長、毎年申請しなければならないことなのですか。

○田部井健二議長 半田生涯学習課長。

〔半田康幸生涯学習課長登壇〕

○半田康幸生涯学習課長 お答えさせていただきます。

この都市再生整備計画事業、それから社会資本整備総合計画というものを既に国に提出してありまして、こちらが4カ年の計画というふうになっております。常にその最新の、例えば計画が大きく変更になる場合は、その都度、年間何回か変更するチャンスがあるわけですが、そちらの変更する機会に変更いたしまして、最新の計画をもとに、この最新の計画の中には年度計画、今年度はこのぐらいの事業をやって、幾らかかります、次の年度はこのぐらいの事業をやって、幾らかかりますというような年度計画が入ってございます。その年度計画に基づきまして、国から内定通知が参っているというような形になっております。

以上でございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 そうすると、これは設計料等も全部加味されていることかなということになると、また当初の見積もりよりも上がった場合の上昇率というのですか、例えば今回16億円の費用

で完成させてくださいよと。そういう中で、町も16億円以内でやりましょと、そういう前向きなことを書いてありますけれども、そういう流れの中で、アップしたことにしましては理由書か何か書いて、それで補助金をもらえると、そういうシステムでしょうか。例えば、これが5億円、6億円上がる。

○田部井健二議長 半田生涯学習課長。

〔半田康幸生涯学習課長登壇〕

○半田康幸生涯学習課長 お答えさせていただきます。

現在町が国のほうに提出をしてありますこの都市再生整備計画ですけれども、基本的には議員がおっしゃるような形で、これまでの制度ですと、例えば大きく事業が変更になる場合も、その計画自体を変更すれば、それに基づいて交付金もふえる。4割という基本は変わらないわけですから、大きく事業費がふえれば、ふえる、大きく下がれば減るといような相関関係がありました。現在、この平成27年4月にこの制度については見直しが行われまして、特に箱物の整備につきましては、事業費の増加を伴うような大きな計画変更の場合は新たな要件を満たすということが必要になりました。今までの要件とは若干認められる範囲が狭まったといような言い方ができると思います。

ただ、前年までに提出をされた計画については経過措置の対象となるということでございますので、邑楽町の場合は昨年末に提出をした最新の計画があるわけですが、その範囲を大きく超えなければ、その4割というのは交付をされる見込みがあるということになります。

現在この最新の町の都市再生整備計画におきましては、この公民館建設事業につきましては19億円というような枠で申請をしてあります。これは計画を提出するときに、この事業自体が非常に柔軟性がある事業ということで、ほかのさまざまな道路や公園とか、そういうものとお金が行ったり来たり、流用することがかなり容易ということで、ある程度さまざまな事業が展開できるようにといようなことで、余裕を持って申請をしていたということがあります。今回全員協議会の場合でも議員の皆様にご説明をした、現在の基本設計終了時の時点での工事費は17億9,500万円ぐらいを想定しているという話をさせていただきましたが、これに先ほど議員ご指摘の設計料等を加えても19億円には達しておりませんので、現在の段階ではまだ国費率4割というか、この事業の採択の要件は満たしているということになります。今後大きく、さらにさらに金額がふえていくということになりますと、この枠を超えてしまうと対象にならなくなってしまう、見直しが必要になってしまふといふことになりますので、その点についても十分な注意を払いながら今後事業を進めてまいりたいといふふうに考えております。

以上でございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今課長のほうから説明いただきまして、ありがとうございます。ということは、これは19億円で申請した流れの中で、例えば40%、これ全額補助が出たとします。そうすると、

約11億円ぐらいの持ち出しになると思いますけれども、この11億円として計算した場合に、どのような、町の持ち出すお金の割合ですね。何を私言いたいかというと、これ一問一答なので、ちょっと、非常に不便なところがあるのですけれども、やっぱりランニングコスト。後世にやっぱり使いやすいような施設。3つある流れの中で8,200万円のランニングコストがかかっているよと。今度新しくすると、やっぱり、物がよくなるのはいいのですけれども、ランニングコストが1年間に約1億円ぐらいいくのではないかなと。そういうことをまとめて言わないと、時間的にちょっとあれになってしまうので。

なぜ私がそれを言いたいかといいますと、やはり使う人、先ほど公助、共助、自助とありますけれども、これはちょっと考えただけでも、邑楽町公民館が72団体の登録があります。長柄公民館は55団体あります。おうらヤングプラザは67団体が使用していると。こういうことを考えた場合、それから松島議員の提案で、議員のほうもいろいろ考えましよう。それで、そういうことを考えると、人件費をかなり背負うのではないかなと考えます。

そういう流れの中で、やっぱり生涯学習とか、極端に言えば、あの世へ行くまで、天国へ行くまでそういう学習をすることは大事ではないかな。そういうことで考えた場合に、この72、55、67団体の団体が1年間に2日ボランティアで、また奉仕活動で管理。今みんな高校、大学を出ている人が多いから、読み書き、作業日報等は十分できると思うのです。できないところを役所のほうが補助する。よく副町長は、物をつくってやったら各種団体に任せるとか、それは前橋市あたりでやっています。だから、よそのまちが物をつくると赤字は当たり前なのではなくて、やはりみんなが協力して、できるだけ出費の削減。そして、その削減した分が弱者に渡るような町政、また議会のほうの意見を。そういうことを考えれば、いろいろの考え方でこれからの町づくりをやっていくことに対して、非常にこれが、子供も大人もみんな勉強になると思うのですよ。だから、基本的には、自分の使うところは自分たちで管理しましようよと。もちろん無料でいいのです。だから、初期投資の費用を、今話したように、十何億円の中の割り振り、起債はどうする云々、その辺のことを、課長、わかっていたら。これは、はっきりまだわかっていないところは、自分の考え、また今までのそういう流れの中での答えが得られれば聞かせてもらいたい。

○田部井健二議長 半田生涯学習課長。

〔半田康幸生涯学習課長登壇〕

○半田康幸生涯学習課長 お答えをいたします。

財源の計画についてですが、あくまでもこれは現時点での試算ということになりますが、過日の全員協議会でも一応財源計画については計画書を配付させていただいております。そちらについてもまた後ほどご参照いただければというふうに思いますが、とりあえずその段階では20億円というふうな仮置きをした数字についての内訳ということで記載をさせていただきましたのは、基金の繰り入れが32%で6億4,000万円、補助金が36%で7億2,000万円、地方債が24%で4億8,000万円、

その他一般財源等ということで1億6,000万円というような内訳をお示しをさせていただいたところでございます。

また、もう一つのボランティアの活用ということについてですけれども、大変示唆に富んだ大切な問題提起かなというふうに思っています。現在でも公民館の利用団体の皆さんには、それぞれが使用した後、毎回毎回使用した後については各自で掃除をしていただくと。それで、確実に完了したかどうか最終的に事務室に報告をしていただくというようなことを行っております。また、個々の部屋だけではなくて、例えば邑楽町公民館を例にとりますと、先週末にも行いましたが、年2回利用団体の皆さんが100人以上集まって大掃除をしていただいております。窓拭きとかブラインドの清掃、樹木の剪定とか、それぞれ利用者の皆さんの得意ジャンルを生かしていただきまして、隅々まできれいにさせていただいております。中央公民館が完成した後もこういったすばらしい伝統はぜひ継続をしてやっていきたいというふうに思っておりますし、こちらからも積極的に利用者の皆様をお願いをし、働きかけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 いろいろ試算を公表してもらいまして、ありがとうございます。

そういう流れの中、これは町が、これは古い資料なのですが、平成24年度の決算の状況を見ますと町の債務額が66億4,218万2,000円となっています。国に関しては、やっぱり平成24年度は何と1,060兆円ぐらいの借金があるよね。群馬県にしても約1兆2,000億円ぐらいあります。そうすると、これは公民館の借金ではなくて、全部のいろいろの借金だけれども、これは今言ったように、我々の世代もそうですけれども、公民館をこれから使う若い人たちの負担になってくると思うのです。あっという間に20年ぐらいたってしまいます。そういう人たちのことを私は今、政治というのはやっぱり10年先、15年先を語ろうよと、そういうことで、これは今のが悪いのではなくて、私いつも言いますが、これは改善提案なのです。

だから、100人来た、120人来たではなくて、一番大事なのは、継続して毎日2人ずつ来るだけで、先ほど私が話したように、毎日2人ずつ来るだけで365日来られるのです。ということは、管理するのは電気だとか何か、そういう管理でしょう。普通、今はどういう労働時間になっているか、8時間労働で、毎日2人ずつボランティアで来てもらえれば、180人、200人来たって、これは入り切れなくなってしまう。だから、そういう「継続は力なり」。そういうローテーションを組んで、それでやってもらう方法をこれから考えましょうよと。ということは、人のため、ある意味では、自分が使う施設だから自分のため。だから、そういう自助、自分のためになることは自助、他人のためになることはやっぱり。そういう、人のために何ができるか、それもある意味では生涯学習ですから、生涯学習のやっぱり旗振りの役目として、課長、その辺どう思いますか。

○田部井健二議長 半田生涯学習課長。

〔半田康幸生涯学習課長登壇〕

○半田康幸生涯学習課長 お答えさせていただきます。

生涯学習の大きなテーマとしてのボランティア、あるいは人々が生涯を通じて何か世の中のためになる。生きがい、それをみずからの生きがいとして生涯を送っていく、元気な生活を送っていくというのは大変大きなテーマだというふうに考えております。どうしたらそういう人をふやせるのか、そういった観点も含めて、しっかりこれから事業を進めてまいりたいというふうに考えています。大変貴重な示唆をいただきまして、ありがとうございます。

以上でございます。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 座らないうちに手を挙げてしまって申しわけないですが、時間がないので。

これ、最後に町長にやっぱりお聞きしたいのですけれども、今課長のほうがいろいろ、基金だとか、そういう残ったお金の出し入れの中で地方債を約4億円ぐらい募るということの中で、やはり私は、同じ金利を払うならば、ご苦労賃を払うのであれば、太田市みたいに町債を募って、町の人に還元できれば。そうすると、ある意味で町の人、次の段階では町政に参加したいという人も出てくる。それはこちらからアプローチしなければあれですけれども。お金を、やはり他に金利を払うよりも、町民に起債を募って払う。町のほうは、だって隣の町の人にお金を払う。隣の町の人には町税を払ってくれませんか。そういうことを考えれば、やはり町の会社の社長さんだとか企業主とか、そういうところへお願いして、それで町債を募る方法が、私はみんなで町づくりをするのだと、そういう観点から、これからやはり人口をばっとふやせといたって、なかなかふえません。よそへ金を払うのなら、やっぱり自分の町内にお金を払って、それでまた応援してもらおう。そういう、先ほど話した、これはやっぱり公助ですね。町長が決めることであれば、公なやっぱり助けです。それで、お互いに公助、共助、自助と心を含めて、そういう、ある意味ではお金のある人が出してくれば自分の気持ちがすっきりする。やっぱり自分の助けですよ。だから、そういうことを考えたら、町長、3分間しかないのですけれども、ひとつ前向きに答えを期待しています。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 愛町債については、正式には住民参加型市場公募債というような言われ方をしておりますけれども、これについてはまさに議員が言われますように、限られた地域においていろんな発行条件、発売の金額等々いろいろ条件はあるわけですが、そういった条件を十分考えた上で実施をする方向で考えていきたいというふうに思っております。平成25年だったと思いますが、議員のほうからもそのようなご質問をいただきまして、十分検討いたしますというお答えをした記憶がございますので、これらはそれを発行することによって町民の皆さんが、その発行する目的ということがあるわけですから、それを考えれば、やはり行政への参加意識を高めるということにも

つながると思いますので、今担当する総務課のほうには指示をしてありますので、その条件等を十分かみ合わせた中で実施する方向で考えていきたいと、そのように思っております。

○田部井健二議長 小島幸典議員。

○14番 小島幸典議員 今町長のほうから、そういうやっぱりいろいろの条件をクリアしてできればということで、隣の太田市なんかはもう6回もいろいろ発行しています。そういう流れの中で非常に町政のかじ取りに大変だと思いますけれども、とにかく2万7,000人の町民のために、議会も行政も、とにかく町も頑張っていたきたいと思います。

どうもきょうは本当にありがとうございました。ここで私の一般質問を終わりにします。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午前11時00分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時15分 再開〕

◇ 黒田重利議員

○田部井健二議長 1番、黒田重利議員。

〔1番 黒田重利議員登壇〕

○1番 黒田重利議員 改めまして、皆さん、おはようございます。1番、黒田重利でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

質問の内容といたしまして、生涯スポーツの推進ということで今回話をさせていただきたいと思っております。よく町の中で、元気で明るい町づくりというのを耳にいたします。小さい子供から高齢の方まで幅広い世代でスポーツに参加、また携わっていただき、元気で明るい町づくりをしていただきたいと思っております。

まず、そこで子供たちの視点からということで、初めに、スポーツに携わるとなると、スポーツ少年団というのが町にあります。今町のスポーツ少年団の種目、登録団体、人数などを、教育長、お聞かせください。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えいたします。

まず、スポーツ少年団の種目ですけれども、柔道、野球、剣道、サッカー、卓球、バレーボール、空手道、ミニバスケットボール、レスリング、ドッジボールの10種目あります。登録団体数にしますと、先ほど挙げた種目の中で複数の団がある種目があります。野球4団、サッカーが3団に分かれ、ミニバスケットボールが2団に分かれていますので、登録団体数として数えますと16の単位団

があります。人数につきましては、登録団員数は平成27年度、330人です。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 ありがとうございます。その中で、中学校の部活動で一緒に続けていかれるような種目、あと中学校の部活動の状況について、ちょっと詳しく教えていただくと助かります。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えいたします。

少年団から中学校につながっている種目は10種目中、空手道とレスリングとドッジボールが中学校にはないので、7種目ということになります。中学校へつながっているスポーツ。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 最初の10種目のうち330人。7種目になるといって、大体どのくらいの人数になるか、ちょっとお願いいたします。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

少年団で330人活動しておりますけれども、そのうち中学校へ行っても少年団で続けている子供は38人おります。内訳を申しますと、柔道が8人、剣道が14人、卓球が7人、空手道が2人、レスリング7人ということで、部活動とは限らないものも入っていますけれども、中学生になっても続けております。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 中学校の部活動の状況で、330人から38人という人数に減ってしまいます。

ただ、多分それはスポーツをしていないのではなくて、部活動としてやっているのが。逆ですか、もしかして。ちょっと今、話をもとに戻します。そうですね。中学校、部活動の状況についてということで話をもとに戻させていただきます。種目の人数が330人で、それから多分、今38人というのは、部活動がないのかという話になっているかもしれないので、ちょっとそこをおきます。

その中で、なぜ中学校の部活動かということ、今ちょっと邑楽中学校と邑楽南中学校で部活動の数が違う。スポーツ少年団の子供たちが部活動として参加できているという状況を教えていただきたいと思います。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

先ほどのご質問で、330人少年団に入っているうち、中学生で活動している子供が38人でした。そのまま中学校へ行って、その種目を続けているというところは、ちょっと数は把握しておりませんので、失礼いたしました。

それから、邑楽中学校と邑楽南中学校の違いですけれども、邑楽中学校の運動部の数は男女分けて数えまして17あります。邑楽南中学校は12あります。邑楽中学校にあるけれども邑楽南中学校にないという運動部は、ソフトボール、バレーボール男子、卓球、陸上、剣道、この5つでございます。この数でよろしいでしょうか。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 ありがとうございます。今邑楽中学校にあって邑楽南中学校にない部活があるようですが、なぜそういうことが起きてしまうのかということと、そのかわりにもし補助的な考えがあるようでしたら、お聞かせください。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 邑楽南中学校に部活動がふやせない理由の一番大きなものは、職員数の問題です。学力向上とか生徒支援で邑楽町にはたくさんの教員を特配いただいたのですけれども、まだ部活動をつくるころまでは至っていないという現状があります。

参考までに、県費負担教職員数は、今年度5月1日現在で邑楽中学校が31名、邑楽南中学校が22名という差がある現状でございます。

以上でございます。

〔「それは前からでしょう」と呼ぶ者あり〕

○田部井健二議長 静粛に願います。

黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 職員数が絶対数が足りないということで、部活動の数がちょっと少なくなっているということはわかりました。

そこで、教員でなければだめだということで、何か得策ではないですが、こうしたらいいのではないかみたいなこれからの考えでもあればお聞きしたいのですが、よろしいでしょうか。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えいたします。

邑楽南中学校に部活動がないために子供の教育の平等性がなくなるというのは、本当にこれは子供にとっていいことではありません。何とかそこを少しでも近づけたいということで今やっております。

すこととお話ししたいと思います。

1つは、他の部に入っているいろいろな経験をしながら、少年団活動は別に続けていくという方法もあるかなということです。

2つ目は、昨年から私のほうで群馬県の中学校体育連盟に掛け合いました。マイタウンティーチャーでも顧問として部活動を持てるように、そして中体連の大会にも引率して行って、出られるようにということで掛け合いました。中体連のほうからは、マイタウンティーチャーでもフルタイムであればというお返事をいただきましたけれども、もう一つ、県の教育委員会でも検討するということで、今返事を待っているところです。マイタウンティーチャーに部活動を見てもらうということにもしなりましたら、部活動手当等をこれから検討していく必要があるなというふうに考えております。

もう一つ私の考え方ですけれども、3つ目は、邑楽南中学校に部活動がなく、スポーツ少年団をやっている、スポーツを続ける特別な理由がある場合は、現在は指定校変更というのがあって、邑楽南中学校の子は邑楽中学校に行けると現在はなっています。また、学校生活は邑楽南中学校で送っているけれども、部活動だけそちらに行くというふうな方法もあるのですけれども、考え方とすると、そこまでするということではなくて、部活動だけが中学校生活の全てではないので、もっとさまざまなスポーツを経験し、人としての幅を広げてほしいなという願いは私自身は持っております。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 今教育長のほうから平等、不平等の話が、邑楽中学校と邑楽南中学校の部活動の状況でありました。それは、話の中で郡大会、要するに公式戦で成績が残せない。例えば、邑楽南中学校でソフトボール、バレーボール、卓球、陸上、剣道をやっている生徒、本当はスポーツ少年団でやっていると。今言ったように、続けていると。それでも、中学に行ったらないから、ほかの部に入る。そこで初めてその部に入るわけですから、すぐに成績は残せない。ただ、長く携わっているスポーツに関しては成績が残せて、でもその成績というのは公式でないという、そのことがちょっと後々不平等になってしまうのではないかなと思ひまして、今ちょっとその辺の話を教育長に聞いたところ、それをなくしていこうという考え、これはとてもいいなと今思っているところです。

ただ、私は、小学生、中学生、義務教育という時期だけはある程度1つのスポーツに絞った、ほかに趣味的なスポーツであれば、それをやっていったほうがいい。私の先生の言葉で「武芸百般」という言葉がありまして、1つのものは100に通じる、もしくは、いろいろやってみるのが知識、能力を広げることだよというのを聞いております。それを今教育長のほうからも、いろんなことをやったほうがいいと聞きましたが、たまたま今回長柄小学校から邑楽南中学校に行く子供の中で数名の生徒が、最後の、余りここまではしてもらいたくないといった中の、学校を選んで邑楽中学校

のほうに来ていたということがありますので、これから先、子供たちの立場に立ったスポーツ、部活動のあり方についてどう対応していくのかというのを、教育長、お願いいたします。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

部活動は教育課程には入っておりませんが、勉強と部活動というのは中学校時代の成長にとって非常に大切なもので、車の両輪と思っています。そこにやはり不平等というのがあることはよろしくないというふうには考えております。今何とかする一つの方法とすると、マイタウンティーチャーが部活動を担当できるように今返事待ちなのですが、これからは働きかけて、できるだけ邑楽南中学校のほうにも、やりたいという部活動を一つでもふやせたらいいなというふうには考えております。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 前向きな意見ありがとうございます。ぜひそれが早くできたらいいなと思っております。

あとは、私のほうから指導者の育成についてなのですが、私自身が町のスポーツ関係にちょっと携わっていたものですから、その携わっているときに、自分の前の会長ですが、その人から、太田市で指導者の育成ということで講習会があるから、その講習会というのが丸々1週間、必ず2時間ずつ1週間、5日間なのですが、ありまして、毎日はいられなかったのですが、仲間と割り振って出た覚えがあります。そのときに、その講習の内容というのが、成長期における、要するに小学校、中学校、高校ぐらいまでの間だとは思のですが、食べること、栄養の分配、あと体の仕組み、骨とか筋力、ホルモンバランス、あと精神面、心と反抗期とかという時期がかかわりますので、これはおもしろいなというような講習を受けてきました。教育長、この講習を町のスポーツ関係者、あと各少年団の指導者、こういう人たちに年に1回、2回、もしくは、多いにこしたことはないのですが、開催できるかとかというのはお願いできるものでしょうか。お願いいたします。

○田部井健二議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

社会教育上のスポーツ少年団の指導とはいえ、そういう子供の体や心の状況、どう指導するべきか、どう考えて子供たちとスポーツを通して向き合っていくか、こういうことは、やはりただ指導者がそこにいればいいという問題ではなくなっているかなと、そんなふう思うので、やはりそういう指導者の育成ということも大事かというふうに思っております。

邑楽町ではどうかということですが、現在スポーツ少年団では各団に2人以上スポーツ少

年団認定員がいることが登録の条件になっております。

そして、その育成について邑楽町ではどうしていくかということでございますけれども、邑楽町スポーツ少年団ではこうした認定員の講習の積極的な受講を呼びかけ、既に資格を持っている人、また講習を受けていない指導者や保護者も対象に、町で独自にスポーツ少年団講習会を開催しているということをやっております。この講習会では毎年テーマを決めまして、指導者の資質の向上に役立つ講習を工夫して実施しています。今年度は9月上旬をめどに、自発性とやる気を引き出すコーチング理論というのをテーマに設けました。また、1月から2月ぐらいになりましたら、スポーツの世界で実績を残している人を講師にお迎えして、スポーツ推進大会で指導者やアスリートを対象にした講演会も開催しているということですので今は計画しています。これからも、黒田議員のおっしゃるように、子供たちを育てていただく指導者の方をいろいろな面で育成をしていけたらいいというふうには考えております。

以上でございます。

○田部井健二議長 黒田重利議員。

○1番 黒田重利議員 ありがとうございます。自分からしてみると、教育長の考えはやはり一歩も二歩も先を行っているかなと思います。そういうことをもっと前面に出していいと思います。私も今言った9月上旬のコーチング理論というのはちょっと存じていなかったもので、町で2回程度、スポーツ振興大会も交ぜて2回はやっているというので、それにはぜひ参加したいなと思います。

自分の中では、子供だけではなく、大人も勉強して、もっといい環境で子供を育てていけたら。スポーツと一緒に携わって、一緒に何かができたら。その中で高齢の方もまざってもらって、えっ、おじいちゃん、きょう来たのなんて、行く行くは行って、仲間が広がるような町にしていきたいなというような感じをこれから持っていけたらなと思いますので、今の教育長の言ったとおり、講習を一回でも多くふやしてもらって、町の認定員が必ず2人以上いるということです。私も一応持っておりますが、その上の資格もあります。そういったときにちょっと費用が出たりしますので、その費用のほうももし積極的にいけるのであれば、その辺を、後でいいので、検討してもらってやっていけたら、もっとその認定員がふえれば指導者の質も上がるかなと思います。

言葉は整いませんが、私の初めての一般質問をこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

○田部井健二議長 暫時休憩いたします。

〔午前 11時40分 休憩〕

○田部井健二議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○田部井健二議長 13番、小沢泰治議員。

〔13番 小沢泰治議員登壇〕

○13番 小沢泰治議員 皆さん、腹が満腹、皮のほうは少したるんでくるかと思うのですけれども、しばらくの間時間をいただきまして、13番、小沢泰治ですけれども、一般質問をさせていただきます。

通告をさせていただいたのは、町長と議会は現実直視の町政と情報の提供を、あと1つが、これからの町、町有施設と町の借金ということですが、主に最初の町長と議会は現実直視の町政と情報の提供をとということをしていただきます。

まず最初に、町長選挙の件なのですけれども、8年前ですか、情報提供100%ということで公約に掲げまして、現在2期目があと少しですけれども、その間の情報提供につきまして、町民に対しての情報提供に、あるいは職員もですが、議員もですが、情報提供、自分で判断したとすれば、必要な情報をどの程度提供してきたか。情報提供100%からしてですね。そのことをまずお聞きしたいと思います。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 必要となる情報については、できるだけ町民の皆さんにお知らせをして情報を提供してきたと、そのように思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 必要となる情報は提供してきたということですが、町民からして必要となる情報はどのようなものが主にありますか。できれば7つ、7項目ほど主なものということで挙げていただきたいのですけれども。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町の事業を執行していく上で町民の皆さんにサービス提供するということが大きな仕事でもありますから、何項目ということに限らず、情報としては提供してきたということでお答えしておきます。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 私が思うに、町民が、あるいは町が、議会もですが、本当に必要とする基本的情報、そういうことでちょっとお聞きしたいのですが、何項目、そういうのは挙げられないが、必要なのは情報を提供したということですが、まずどのような情報が必要であるか、それ、町長の頭の中にあるものを教えていただけますか。邑楽町がしっかり元気に発展していくために。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ですから、町の行政執行をしていく上で、なおかつ町民の皆さんへサービス提供が充実できるような情報ということに限られますけれども、そのような考え方もありますので、これこれということについては、町政運営の全ての事業ということでご理解いただきたいと思います。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 町の全ての事業についてということですが、私が個人的に思うのには、やはり基本的な情報提供が今の金子町政には欠けているというふうに思っているのです。なぜならば、情報提供いろいろなさっているのでしょうけれども、それはいつもいつも自分自身のため、1期目もそうですし、2期目もそうですが、自分自身の選挙のための情報提供、選挙のために都合がいいような情報提供だと思いのですね。私はそれでは町民は幸せになれないし、これからの邑楽町を考えたときには、きっと後悔するような状態になるのかと思います。先ほど、町の人口ピラミッド、皆さんにお配りしましたけれども、住民課から出していただいたのですが、そういう基本的な邑楽町の、それがまず第一ですけれども、基本的な情報提供をなさらないで、自分に都合のいいものは広報おうらでもじゃんじゃん出ています。年頭の挨拶の中だとか、邑楽町の施政方針だとかということでもありますが、本当に大事な情報をしっかり提供することが行政としての私は役目だと思うのです。議会もそのとおりだと思います。

そういう中で人口ピラミッド、皆さんよくごらんになったかと思いますが、その人口ピラミッドを見ながら、町の人口の推移、それに伴う子供だとか高齢者だとか、そういう年代の方の数字も出していただいたのがあります。その人口ピラミッドを見ると、ゼロ歳から100歳まで載っていますから、皆さん一目瞭然、邑楽町が何をせねばならないか、今どういう危機に立ち入ってきているかというのがわかると思うのですね。

その中で、年齢別の人口の推移ということで出していただきました。本来は、昭和30年代ですか、それからずっと追って来ると、邑楽町の衰退、あるいは盛んになった、また衰退とか、それがわかるのですけれども、平成元年から出していただいたのですが、平成元年の人口が2万5,821人、これは外国人を含んでいないのですけれども、それでピークが平成17年の、2万5,821人が今度は2万7,921人なのですね。そして、町長が初めて町長になったとき2万7,779人、それで現在が幾らかといいますと、平成27年が2万6,622人。そうすると、2万7,921から2万6,600を引きますと、1,300人ここで人口が減少しているのです。特に金子町長が首長になって、町を牽引していく、その立場になってから、毎年毎年人口は減り続けております。そして、今お配りさせてもらった人口ピラミッドとあわせて見れば、これからの邑楽町がどのような町になるか、町民にどのような厳しさが回ってくるかわかると思うのですね。この2万7,921人と2万6,622人、それを比べていただいて、町長、どのような思いがしますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、情報の提供が自分自身のため、選挙のためというご質問がありましたが、私は町民の皆さんのためにどのような町政運営が望ましいのかということについて議員の皆さんと協議をした中で進めてきたということでもありますので、決して自分自身のため、選挙のために町政運営をしているということはありません。小沢議員のそれはご意見として、そういう考え方もあるのかなというふうに受けとめておきます。

それから、私が就任をしてから人口は少なくなっているというお話ですが、平成17年をピークにして現在毎年減少しております。これは、私のみならず、前任者のときもそのような状況があったわけですので、長がかわったからということでは私はないというふうに思っていますし、やはりその時代的な趨勢の中で人口減少というのは起こっていると。したがって、今全国的に人口減少、少子化問題等が叫ばれているのは邑楽町だけでもありません。しかし、そういったことをどのように食いとめるか。人口をふやすということについての施策は、先日も皆さんのご理解をいただいて、いろいろな経済的な支援を行ってきたということでもありますから、そういうことが今後そのような形で歯どめになればよろしいのかなと、そのように思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 ただいま、いつもお話伺うのですけれども、全国的に減少しているのだと。ですから、邑楽町もしようがないのだという話ですけれども……

〔「違います」と呼ぶ者あり〕

○13番 小沢泰治議員 邑楽町も同じだということをお話されましたが、私はやはり施策の打ち方によってその辺も解決できるだろうし、また改善もできると思うのですね。前にもお話ししましたが、邑楽郡下、郡だけでなく館林市、太田市も含めて減少率が下から2番目って、減少率が高いのが上から2番目なのですね。なぜこのすばらしい邑楽町でそのようになるか。それについては自然減もあれば社会減もあるわけですけれども、両方とも大変減少しているわけです。ですから、そういうことを考えたときに、日本じゅうが減少なのだからこうだというわけにもいかないと思うのです。邑楽町のこの平たん地、首都圏ということをお考えた場合に、町長は現実にどのようにお思いでしょうか。ただ、日本じゅうが減っているのだから邑楽町もという考えでしょうか。そうでなくて、何かの原因があると思うか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現実に邑楽町も人口の減少が起きているわけですので、その人口減少を少しでも和らげる、増加に結びつけるということについての施策ということをお打ち出しているわけでもありますから、それが将来にわたって効果ができるような町政運営、これから大切だと、そのように思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 私、1期4年できたら、前の続きもありますし、つながりもあるし、いろいろ言いわけが立つと思うのです。4年間に過ぎて、次の4年間に今終わろうとしているわけですが、けれども、なぜ少しでも改善というのができないのでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 改善ができないということでなくして、改善を今行っている、改善に向けて仕事を進めていくということをご理解いただきたいと思います。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 町長と教育長のところには町の人口ピラミッドだけでなく、館林市、太田市のピラミッド、また中学校の沿革と申しますか、これまでのことがグラフで載っていると思うのですけれども、それを見たときに、私比較というの、余りよくないことなのではけれども、比較というのは非常に大事だと思うのです。現実にサラリーマン生活もしました。また、個人事業を今営んでおりますけれども、全国平均と比較して、あるいは同じ地域の群馬県あるいは東毛地域、今は、サラリーマンのときもそうでした。社内でいろいろコンテストあるいはノルマがありまして、平均点以上にならないければ前進あり得ないと思います。

それで、現実に今個人事業ですけれども、やはり平均点以上を守っていくその努力をするということは大事だと思うのです。町長のこの8年間を見ますと、私は平均点以上というのが町民の幸せのためには絶対必要だと思うのです。それがなっていないと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変申しわけありませんが、何を基準としてその比較がなっていないか、なっているかということについてのお示しをいただければお答えしやすいのですが、お願いいたします。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 厳然たる人口減少社会に邑楽町は特に強くなっております。そういう中で社会減と自然減ありますから、自然減は、これは非常に厳しいものがある。それこそ全国的に見ても厳しいものがあると思うのです。そういう中で、なぜ両方とも非常に高い率の減少を続けているか。社会減については、このすばらしい邑楽町ですから、手の打ち方、それは国道354号バイパスもあります。あるいは、館林インターチェンジもあります。太田桐生インターチェンジもあります。そういうことを考えたときに、町のため事業をせねばならないということが頭に、念頭にあったならば、何が何でも社会減については解決策が生み出せるのではないかと申すのですが、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 社会情勢によつての減少というのは、邑楽町のみならず群馬県全体を見ても、これは大変厳しいものがあります。例えば、東京のほうの学校へ行ってしまうと、そのまま就職をしようという方の割合が大変高いようですね。そういうことを考えますと、この社会的な情勢の中で一つの現象かなというふうに思っています。

今具体的に町に、あえて言うならば、商業あるいは工業等の誘致を図ることなのでしょうが、前にも、昨日のご質問にもお答えしたかと思いますが、その開発をする行為について大変厳しい条件がありまして、具体的に国道354号の話も出しましたが、これらについてもその条件をクリアしませんが、なかなかそういった現実の問題として進めていけないということがありますが、国のほうでもそういった面の規制緩和ということを考えておられるようですので、そういったチャンスをつかんで、現実なものに考えていきたいという考えでもあります。

自然減少については、これはただいま厳しいものがある、なぜ高いのかということは、これはまた邑楽町だけでなく、ほかの町にも言えると思いますが、高齢化の問題も、それから出生の問題も大いに関連してきますので、出生の問題については、いろいろ環境を整えた中で少しでも多くの方に理解をいただいて、出生の人数が上がるようなことで今進めているわけですから、将来にわたってある程度の効果は私は望めるのではないかなと、こんなふうに思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 私は、社会減を抑える、あるいは社会増にするという手段はこれまでもいろいろあったと思うのです。町長の責任というところオーバーになってしまいますけれども、店高原の工業団地の件、あの件についても、古い議員の話なんか聞きますと、いろいろ問題があった。今回また県からの要請もあって出したが、だめになった。あれについては、私は県がノーでなくて、町が強力に県に、圧力ということはちょっといけないですけども、お願いして、要望すれば、何とかなるのだと思うのです。水害の問題等あってどうのこうのというお話ありましたけれども、やはりそういういろいろの障害はありますけれども、それを乗り越えるのが町長の仕事であると思うのです。

ただ、工業団地については、地権者の数と面積の比率がどうだということ、お話ししますと、96%が了解いただけたけれども、残りが判こを押してくれない。それが面積でいくと83%、そういうような数字だったと思うのですが、そういうどうにもならない町長の過去のしわざといいますか、それがきいているのではないかと思うのです。それがあつたために、県のほうに行ってあえて積極的に言わない。どうしても、県も欲しがっているわけですから、残りの工業団地が面積が少なくて困っているわけですから、多分この立地のいい邑楽町であれば流通関連等は、館林インターチェンジは近い、太田桐生インターチェンジも近い、ちょうど中間点が邑楽中学校南の信号、あのあたり

ですけれども、そういうことを考えたならば、町の押しようによってはきっと実現できたと思うのです。そのことについて、今はおしまいになってしまったわけですが、どのようにお思いでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 小沢議員にお返ししては大変恐縮なのですが、質問の内容が正確なものとして調査していただいたかどうかちょっと、申しわけありませんが、確認をいただきたいのですが、狸塚の工業団地の件については前の全員協議会等で詳細にわたって説明させていただきました。それが取り下げをしたということは、水利の問題ということが大きな原因ということです。地権者の方から九十何%とかいう話もありましたが、これらについては十分調査をした中での取り下げということになっているわけです。

それから、狸塚の工業団地の後、県のほうに出されたがだめになってしまったというお言葉がありました。狸塚の工業団地以降はそういった申し入れはしていないので、県のほうで認められなかった、だめになったということはまずないものですから、大変失礼だったのですが、お聞きをしたわけです。町は十分その手続に基づいて、そして地域の事情、他市町の事情等も十分考えた上で狸塚の工業団地の取り下げということですから、その辺を十分ご理解いただかないと私がどうお答えしていいかわからないものですから、ちょっと失礼でしたが、お聞かせをいただきました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 まず言えるのは、私は町長の押しが足りないと思うのですね。押せない理由もありますけれども、それはあえてお話ししませんが、1期目からがあるのです。ちょっとお話しすれば退職金問題。あんな……

○田部井健二議長 小沢議員……

○13番 小沢泰治議員 はい、内容が違ふということね。

○田部井健二議長 通告に沿った質問をお願いいたします。

○13番 小沢泰治議員 はい。そういうことを考えれば、強く出ていけないというのがあつたと思うのです。そういう中で、そういう工業団地もできないような状態です。

それで、総人口の1,300人減つてゐるということは厳然たる事実で、社会減あるいは自然減、両方なので、ぜひ社会減の解決をしていただきたいのです。ぜひお願ひします。これは町長の動き方で私は解決できるような気がします。不動産業者に直接申し入れて邑楽町に住んでもらう、住み着いてもらう。あるいは、既存の街区に新たな住宅を建てていただいて住んでもらう、そういうことがあります。

それで、何で私が人口減を危惧するかといひますと、総数がそのように減つてゐて、14歳以下、

小さい子供たちが少なくなっている。65歳、75歳以上の方が非常にふえている。例えば、14歳以下がどのように動いているかという、平成元年が5,766人だったものが平成27年は3,263人、このように激減しているのです。町長が1期目に町長になったとき3,766人が3,263人ですから、500人子供たちが減っている。14歳以下の方、までの方ですね。それと、それとは逆に、これは高齢者、高齢化、そういうことなのですけれども、65歳以上ということであれば2,728人が7,238人です。75歳以上は991人が2,850人なのです。3倍ふえています。これはますますふえます。そういうことであるから、しっかりと町民に情報公開をして、解決できるように進めなければならないと思うのですね。

子供たちがこのように減っている中で、邑楽町には小学校4、中学校が2つあります。先ほども質問に出ましたけれども、運動、部活動、そういうものが満足にできない。先ほど教育長からは、先生の数がないから云々という話がありました。話間違っていると思います。子供がいないから先生はいないのです。答えは、答弁はそうではなかったですよ。先生がいないからできないのだという話でしたよね。そうでしょう。厳然たる事実があるから、先生がいないのです。

それと、邑楽中学校と邑楽南中学校の部活動にしても、先ほどの邑楽中学校にあって邑楽南中学校にない、そういうのが、10いっていませんでしたか。そういうのがありましたけれども、実際は十三、四あるのですよね。私は資料をペーパーで、この1年間で変わったかもしれない、何かの手段をとって変えたのかもしれないのですけれども、私が資料をいただいたときは十三、四あったのです。それが、だから10近くが改善したのかもしれないのですけれども、そういうのがあって、本当に邑楽南中学校は子供がいないために苦勞しているわけなのです。先ほどもあったように、公平な、平等な教育が受させてやれない、そういう厳然たる事実があるものですから、その子供たちがこのように少ない状態で学校も不自由というか、いろいろ支障を来しているということについて、行政として、町長としてどのようにお思いでしょうか。教育長のは先ほど話がありましたけれども、町長として。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 南中の生徒が少なくなっているということですが、現在は若干でありますけれども、長柄小学校も増加しているという報告は受けているのですけれども、減少しないようなために、そして今言ったようなことが少しでも充足ができるような考え方で、子供支援のいわゆる経済対策を含めて、そして教育施設等の整備も含めて行っているわけでもあります。したがって、その問題解決、現状ではそういった問題もありますけれども、それを少しでも改善し、なくすような形での施策を今現実に進めているわけですから、先ほどお答えしたような形での期待をしていきたいと。

また、いろいろな、小沢議員のほうでこういったことはどうなのだろうかというような案があれば、提案という形でお示しをいただければ、なおありがたく思います。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 やはり私は、町長のトータルとして、町長の力不足だと思うのですね。何かほかのまちのお話もさっきちょっと休み時間に出ていましたけれども、やはりその積極性、力強さ、その辺をぜひ発揮していただいて、改善していただければと思うのです。

それで、65、75歳以上の人数をお話ししましたけれども、3倍もの増加、ふえているわけですね。それに対してどのように手を打って、今後の高齢者が多くなる、それこそ4割にもなってしまうとか、地域によってはそういうところも町うちでもありますけれども、それを改善するために、またそういう方々が楽しく元気に過ごせるために、そのような現実、厳然たる増加があるわけですから、この解決策としたらどのようなことを今後考えておりますか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 高齢者の方が元気で、そして毎日を充実をした生活を送る、送っていただくということは、これは高齢者福祉対策の大きな願いでもありますし、現にそういったことはいろんな角度で各行政区の皆さんも行っていただいている。もちろん町のほうもその行事あるいは活動に対しての支援というのは行っているわけでもありますから、この高齢化の問題、福祉の問題はそのような形で今後も進めていきたいと思っています。

ただ、高齢化率でいきますと年々高くなっておりますから、この高齢化率の高いところの方々を健康で元気に毎日が生活できるような環境を整えていくということは私たちの仕事の中での大きなウエートを占めているものかなと、そのように思っています。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 高齢社会になっているわけで、厳然たる事実で、それで、それを解決するためのお話を今なさいましたが、私は本当の意味で張りが持てるような施策を打っていないと思うのですね。高齢者が、ほんの一部ですけれども、年金をしっかりいただいている方が、その年金を使いながら、自分たちだけが楽しく過ごす、時間を費やす。やはり他人のためになるようなことを町として考えたらいいかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 高齢者の方も含めて、先ほど教育長のほうから、生涯教育を充実をする、生涯学習をいかに進めていくかということで、中央公民館についての利用ということも大きな環境整備につながっていく。やはりそういうことを踏まえて、年金をもらっている方、いない方にかかわらず、高齢者の方が元気で毎日を過ごしていただくということが私は大切なことだと思っています。ただ、議員のご質問のように、それをどう、高齢化率をどうなくしていくか、解決していくかということについては……

〔「高齢化率はしょうがないよ」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 そのようにご承知でしたら、今お答えをしたということでお聞きいただきたいと思います。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 町長はしっかりした年金もいただいていますし……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○13番 小沢泰治議員 もらえないほど報酬が多いのかな。そうでもないかと思うのですけれども、例えば老人会に参加できる方、なさっている方は、こういうことを言っているかあれなのですけれども、幸せな方ですよ。でも、老人会に入られていない方がいっぱいいるのですね。今老人会員は1,200人ぐらいかな。老人会に入っていない方が非常に多いわけです。その方々が、私は策がない、どう思って、先ほど首を横にしておりましたけれども、私は収入を得られるような施策を町が考え出してやって、それに携わってもらうことだと思うのですね。何歳、70になっても80になっても税金が払えるような環境をつくる。そうしたならば、きつときつ、今社会教育施設どうのありますけれども、それ以上の効果が私はあると思うのです。テレビを見ておりますと、邑楽町は農家が多い町ですから、特に当てはまるような気がしますけれども、やはり仕事に携わっていただくような施策を町が打つ。施設をつくって、私も青年時代はコーラスをやったり、いろいろ、いろいろ活動してまいりました。また、舞台に立って、コーラス等では指揮もとったこともあります。前もお話ししましたけれども、東京教育テレビにも出演したこともあります。そういう中で、今そういうチャンネルはないのですけれども、名前はないのですけれども、そういうのもあるのです。ですから、私はその社会教育施設がどうのこうのというのは十分理解しているつもりなのです。そういう中で、やはり収入を得られるようなものを町は商工農業、そういう産業界と一緒に取り組む必要があると思うのですが、町長、いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町のほうでもそういった農業振興あるいは産業、商工振興ということについてのかかわっている課もありますから、言われるようなことについては、やはり前に向かって進んでいくということにはなります。

またお返しして申しわけありませんが、小沢議員、商工会の理事をやられているかと思うのですが、商工会のほうもそういう点では、これは町と町商工会のほうとの協働といいますか、そういうことを考えていけば、あわせてそういった環境もできるのかなというふうに思います。高齢者の方が喜んで働いて収入が得られるということは、今の年齢の平均寿命は延びたということを考えれば、そういった施策というか、そういう考え方も進めていくということは必要だというふうに思います。

いずれにいたしましても、高齢者の方が安心して安全に暮らしていけるようなまちということは

誰しも願っているところでもありますから、今後も引き続き進めていきたいというふうに思います。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 町長のお話は歯切れが悪いし、抽象的なのですね。

仕事、収入を得る、収入を得させれば、得ていただければ、きっとやっぱり豊かな気持ちにもなるし、やりがいもあるし、あるいは人のためになっているのだということも痛切に感じると思うのです。議員の中にも百円ショップだかやっているという方もいらっしゃいますけれども、私きょう屋敷内のビワの木から、朝早く起きて、脚立に乗ってビワをとってきたわけですけども、あれ、粒は小さいです。ことしは選挙があったからすぐらなかつたから、忙しいために……

○田部井健二議長 小沢議員、通告にのっとった質問をお願いします。無駄話は結構です。

○13番 小沢泰治議員 はい。それで、高齢者の対策は、ただ一つ、私はそれだけで十分やっているとと思うのですね。工業にしても、商業にしても、農業にしても、多分実現できると思います。

そういうことで、あとは私が邑楽町として足りないのは情報提供の少なさ、足りなさ。先ほどの人口ピラミッドもそうです。町民にそれを配ったことはありますか。人口ピラミッド、邑楽町はこうなのですよと配ったことはありますか。それは大もとのもとの情報です。そういうのが足りないから、では子供たちが漠然と、少ないのだよな、隣組に小学校に行っている子がいないのだよ、そんなものなのです。だけれども、子供たちがいないのと、高齢者については厳然たる事実があるわけです。

例えば、高齢者に関しては、ひとり住まい、知らないうちに亡くなっていたとか、それを解決しなければならぬのですから、民生費、いろいろ、高齢者もふえているから、予算も相当とりますよね。これを見てもそうですけれども、民生費は非常にふえております。それを実際に必要なものにお金を多く使って、必要でないものには使わない。また、ほかで用が足りるものについては、公民館ホールにしてもほかで十分用が足りますから、すばらしいところで発表したければ、すばらしいところは近隣にいっぱいあります。そういうことで、これから本当に高齢化が進んで、民生費が余計かかる、子供がいないのですから、その辺をよく考え直して、私は町の提案していることも考え直すのも必要かと思えます。ぜひ情報提供をしっかりとっていただければ、町民も協働の町づくりではないですけども、では、どうしようか、どうしようかとアイデアが出てくると思うのです。たまたま新中野については、現実に4割も、44%か、そういう高齢者がいるわけです。ですから、ああいう、50人で立ち上げたとか、そういうのが出てくるのですけれども、あれが末端に行き渡らなければだめなのです、一部の人では。ですから、公民館活動にしたって、ほんの一部の人なのですよ。であるから、予算を余りかけずに、充実した高齢者、老後の生活ができる、あるいは後ろ向きの民生費がかからない社会をぜひつくり上げていただきたいのです。あと半年たつと、町長選挙もあります。ですから、ぜひ心を入れ替えていただいて、安心、安全、豊かな町、本当にすばらしい邑楽町ですから、やる気になればできるのです。

先ほどピワの話をしましたけれども、あれは高齢者対策とすれば、例えばピワは一回にできてしまうのではないのです。毎日毎日赤くなってくるのです。それを道路の端に、普通お店で買うと六、七百円すると思うのですね。あれを100円、200円で置いてみて、あれを買っていった人が食べてみてごらん下さい。きっと、ああ、うまいからという、そういうことも出てくると思うので、やはり町は的確な、町民が必要とする情報を提供して、町長にとっては悪い情報も提供して、すばらしい町をつくってもらえば、私は高齢者福祉対策にもなるし、子供たちの増加も見込めるだろうし、そのように思うのですが、町長いかがでしょうか。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、情報の提供ということについては、昨日の議員のほうからもるご質問がありました。そして、積極的にその公開については、この議会の活動記録も含めて実施をしていきたいというふうにお答えをさせていただきましたが、そういった形でこれからも情報公開については広く町民の方にお示しをするということについては、昨日のお答えでご理解いただきたいと思います。

それから、これは第六次総合計画のアンケート調査でもありますが、邑楽町について大変いいところだというような回答もいただいております。これからも邑楽町に住み続けたいと思えますかという問いに対しても、約82%の方が、これから住み続けていきたい、当分は住み続けたいということも含めてですけれども、なので、そういった町民の皆さんのアンケート調査の中のことも踏まえて、これから、今までも私は精いっぱい町民の皆さんへのサービス提供はしてきている、事実上理解をしていただけるというふうに思っています。なのですが、これからも引き続き、今まで以上に、より町民の皆さんへのサービス提供も含めて町づくりに頑張っていきたいと、そのように思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 第六次総合計画のアンケートですか、それについては、そのように高い率で、すばらしい町だ、住みたいということであるわけです。だとしたら、よそから住んでもらえばいいではないですか。現実に邑楽町がよそと比べて人口が減っているのですよ。そういうことを考えたら、もうちょっと積極的に事を打っていただければいいと思うのです。

それで、町民の意向を、さっき選挙運動だと私は言っていましたけれども、真の意味で町民の意向を確認するようなことをやっていないのです。意向確認をちゃんとしたならば、本当にいい町ができると思います。ファンダメンタルズ、基礎的な条件は邑楽町は非常によく整っていますから、住んだ方が「いいです」とかと言うのは当然なのです。なので、施策をしっかり打ってください。

それと、インフラについては、やはり道路整備、例えばとりせんの前の道路、あそこをしっかりと

した道につくり替えるのには50年かかります。50年たたないと家の建て替え等は進まないから、50年たたないとできません。そういうことを考えたとしたら、もう少し、ああいうものでなく、道がよくなることはいいことなのです。だけれども、ああいうものでなく、生活道路等にもっと予算を配分して、対向車が来たら通れないような道をできるだけなくす、そういうことを考えたらいいと思うのです。この人口の減りようですと、道路が今後混雑してどうしようもないなんていうのはなくなると思います。ましてや、町長の失敗でできなかった19号線ですけれども、開通したならば足利呂楽行田線の混雑も解消できるし、群馬銀行のところの交差点の混雑も解消できるでしょう。ですから、本当に町民が欲しているもの、あるいは町民のためには何か、そういう意向調査もしながら町民に情報提供をして、町のために頑張っていたきたいと思うのですけれども、最後に、意気込みはいかがでしょうか。あと半年ですから。

○田部井健二議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども申し上げましたが、正確な情報でご質問をお願いしたいと思います。

1つ19号線の問題を取り上げられましたが、私の失敗ということのご質問がありましたが、私はそのように思っておりません。誠心誠意お願いをして、地権者の方の協力を得て、この12月ごろには供用開始が始まるであろうというところまで来ました。もっと正しい情報の中でご質問をいただけないと、答えに困ってしまいます。そして、これからの意気込みについてというお話がありましたが、私は、議員の皆さん、町民の皆さんと力を合わせて、これからもよい町をつくるように職員と一緒に頑張っていききたいと、このように思っております。

○田部井健二議長 小沢泰治議員。

○13番 小沢泰治議員 19号線の件につきましては、地権者本人から私はしっかり聞いているのです。また、町長なしで印鑑も押していただいたのです。そういう経過があるのです。それは事実なのです。

以上で質問を終わりますが、本当は2問目があったのですけれども、これはまた機会がありましたら質問させていただきます。ちょうど1時間、ありがとうございました。

◎散会の宣告

○田部井健二議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。明日6月18日は議案調査等のため本会議を休会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田部井健二議長 異議なしと認めます。

よって、18日は議案調査等のため本会議を休会とすることに決定しました。

最終日となる19日は、午前10時から会議を開きます。

本日は、これにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午後 2時00分 散会〕